

【代表的な研究テーマ】

□ **特別支援教育で繋がる総合大学への期待**

キーワード：特別支援教育、学際的、協働、総合大学、特別支援学校

「特別支援教育は学際的な力を必要としている！」

私は4年間に渡り教育学部以外の教職科目「特別な支援を必要とする子どもの理解」を担当することとなりました。その授業内で、学生から「あなたの学部・専攻から障がい・特別支援教育に貢献できること」の提言をまとめました。

以前より、特別支援教育は「学際的な力」を必要とすると感じていましたが、多くの異なった学部生に接する機会は、この思いを確かめる好機ともなりました。なお、この取組は、「複数の視点で問題解決」をしようとする試みでもあり、総合大学としての静岡大学という組織をフル活用し、地元への貢献を図ろうとする試みでもあります。

実際の教育の場での子どもの様子、教育環境の様子、様々な支援機器の様子などを見せて頂き、学生や大学教員の参加も得て、ラウンドテーブルを実施しました。

「臨床の場が、私達に語りかける声」を聴き、この取組を続けて、今後は「プラットフォーム」に繋がたいと考えています。

[https://drive.google.com/file/d/1aKFVd3f0orAPki\\_U2VXfnZBCe3ooayvM/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1aKFVd3f0orAPki_U2VXfnZBCe3ooayvM/view?usp=drive_link)

<研究経過>

- ① 学生からの「特別支援教育への貢献」としての提言をまとめました。
- ② 特別支援学校からのニーズを把握しました。
- ③ 特別支援学校教員・学生・大学教員の三者でのラウンドテーブルを実施しました。



「静大は常にあなたの傍にいます！」

特別支援教育は、「教育の分野」です。しかし、ICTの活用をはじめ、認知に関する研究、工学等での様々な補助具の開発、あるいは法整備などの助けが必要です。

幸い、静岡大学は様々な学部を擁する総合大学です。そこで、大学内での連携を図り、さらに地域の特別支援学校などの教育現場との「協働」を進めたいと考えています。

そして、障がい一般へもコミットできる繋役(プラットフォーム)を目指します。

地域にとっては「静大からの知見が有難い」と感じていただける存在として、また、インクルーシブ時代を推進する「優しく」かつ「遅しい」存在として認知して頂けることを目指します。



■ その他の社会連携活動

- ・ 島田市特別支援教育専門家会議委員
- ・ 吉田町専門家チーム会議委員
- ・ 袋井市特別支援教育アドバイザー
- ・ 「スノードロップ菊川」との協働

■ 相談に応じられる関連分野

- ・ 特別支援教育一般
- ・ 子ども理解の推進
- ・ 医療、保健、福祉との連携の推進



岡本 康哉

教育学部附属  
教育実践総合センター  
特任教授

